

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590600197		
法人名	社会福祉法人勝縁福祉会		
事業所名	グループホームひごころそう		
所在地	山口県防府市大字浜方8番地1		
自己評価作成日	平成28年1月29日	評価結果市町受理日	平成28年7月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成28年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念にありますように「人の幸せを祈る」その人らしさを大切に、おもてなしの心で一人ひとりの幸せに関わらせていただく。施設職員も皆様の家族が「幸せ」となる施設をめざす。「縁」出会いを大切にその心が最高のサービスにつながる。「笑顔」アットホームで笑顔の絶えない施設づくりを目指す。スタッフ一人ひとりがプロ意識を持ち共同し業務を遂行します。「共に」地域の方、利用者様とその家族に情報を公開し、情報を共有します。また、福利厚生の一環として昼食時の1時間の休憩・有給休暇の取得にも配慮しております。開設3年の施設ではありますが、理念の施設づくりをめざして、地域住民に可愛がっていただけるように職員も切磋琢磨をしながら、地域密着型の施設のお手本となるように目指していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある「その人らしさを大切に」ということを職員全員が常に意識され、利用者が日々、喜びを持って過ごせるように取り組んでおられ、利用者のその日の体調や様子、言葉などを連絡帳や経過記録に記録されて、本人の思いや意向の把握に努められ、ひとり一人にあったペースで過ごせるように支援しておられます。食事は、法人栄養士の献立の配食を利用しておられ、好みや食品交換、形状の工夫をして食べやすい食事の提供をされ、季節に応じた行事食(節句料理、クリスマス、ハロウィンのデザートバイキング)や誕生日のケーキづくり、月1回の外食など食べることを楽しさを工夫されています。季節を肌で感じてもらえるよう外出の機会を増やされ、本人の思いをかなえるために家族の協力を得て買物や寺参り、外食など、戸外に出かけることができるよう支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人の「幸せ」を祈る。その人らしさを大切におもてなしの心で、お一人おひとり幸せに関わらせていただく。施設職員も利用者の家族が「幸せ」となる施設を目指している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。管理者を中心に、全職員で月1回あるミーティングの中で理念について話し合い共有して、利用者の「その人らしさ」を大切に、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所と地域のつながりとして、春と秋の草刈りを行っており少しずつ事業所自体が地域の大切さを共有しなければ、地域とは上手くないとみて2年9月に、秋祭りを行い地域と一緒に盛大なお祭りを挙行し地域から喜んで頂きました。	自治会に加入し、事業所便りを地域に配布して理解を深めている。職員は年2回ある地域の清掃作業に参加し、利用者は地区の敬老会に参加している。今年度から法人主催の秋祭りを実施し、地域からは子どもから大人まで300人近くの参加者を得ている。隣接のデイサービスにボランティア(フラダンス、手品、よさこい、オカリナ演奏)が来訪の際には利用者も出かけて交流している。	・地域とのかかわり方の工夫	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は4階建てであり、敷地も広くまた防府市は海拔があまり高くない、大きな嵐が来ればひとたまりもないので防府市役所に行き、もし嵐の時にはご遠慮なくと申し送りをしたところ、消防訓練等が行われました。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	施設長、管理者、職員は自己評価及び外部評価は全職員で行い、外部評価は回覧として全職員で把握している。	管理者は評価の意義を説明し、自己評価をするための書類を配布して記入してもらい、計画作成担当者と一緒にまとめている。自己評価を、日々のケアの振り返りと捉え、職員から、利用者の自立を目指した支援を優先する必要がある。との意見があり、利用者の自立を目指したケアについて話し合いを始めている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、職員全員での自己評価への取り組みや地域との交流を深めるために、事業所主催の秋祭りに取り組むなど、できるところから改善に努めている。	・評価の意義と理解の活用	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は議事録にまとめ全職員で把握している。来所された方はいつでも見ていただけるよう玄関横に掲示している。第1回目からの議事録も自由に見られる様になっている。	会議は年6回、併設の特別養護老人ホームと合同で開催し、利用者の状況や活動報告、食事状況(行事食の紹介)、事故報告、ヒヤリハット報告を行い、外部評価結果の取り組み状況や報告内容について話し合いをしている。会議に合わせて、介護技術の実演も行っている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者とは、運営推進会議及び介護保険更新等により、高齢福祉課に行く場合もあり、丁寧に接していただいております。市町に対してはいつも感謝いたしております。	市の担当者とは運営推進会議時や直接出向いて情報交換や申請に関する相談を行い、助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時や電話、直接出向くなどして情報交換や事例相談を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の実施とマニュアルにより、全職員に徹底。防犯以外の施錠は行っていない。但し、窓から伝え逃げをして、警察署のお世話になる事も多々ありました。全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 *身体拘束0(ゼロ)への取り組み 利用者の尊厳と主体性を尊重し、身体拘束廃止に向けて、身体拘束廃止委員会の設置、施設長が委員長となって、毎月、事故、身体拘束について話し合いを行い、身体拘束0へ取り組んでいます。	マニュアルを基に研修を行い、職員は身体拘束の内容や弊害について、正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい人があれば一緒に出かけたり、気分転換を図るなどして、拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、気がついた時には管理者がその場で指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設では、利用者お一人おひとりの幸せを祈り、全職員が徹底し、高齢者虐待が起きないように、入浴時、おむつ交換時、身体をチェックしており、虐待防止委員会で取り組んでいます。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員の中には地域福祉権利事業、成年後見制度に関心を持っているものもあり、あらゆる機会を設けて、県社会福祉協議会及び県介護支援専門員協会等の案内等を伺い、可能な限り職員の参加を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に限らず、家族との連絡を密にし不安や疑問に答えている。十分な説明と納得後、同意欄に署名捺印を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定めて、いつでもご相談を受け付ける体制にあると認識をし理解しています。	苦情相談窓口、及び担当者、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。家族からは、運営推進会議参加時や行事参加時、面会時に要望や意見を聞いている。玄関に意見箱を設置している。家族からは外出の機会やレクリエーション、運動量を増やしてほしいとの意見があり、運営に活かすように検討している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内には安全対策委員会、栄養委員会、教育委員会、行事委員会、感染委員会、褥瘡委員会、建設的な意見・提案は積極的に採用して反映させている。	月1回のミーティング時や毎朝の法人朝礼時、法人の7つの委員会(教育、運営、行事、栄養、感染、事故対策、褥瘡)参加時に代表者や管理者が職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日頃から管理者の方から言葉をかけて話しやすい雰囲気づくりに努めている。気づきや要望があれば申し送りノートに記録してもらっている。利用者の安全と個別性のあるケアに取り組む工夫について意見があり、職員全員で話し合いをしている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件整備に努めている	代表者は、職員に労働時間・給与水準ややりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件整備に努めている。また、昼食時間には60分の休憩を取るよう奨励している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員に労働時間・給与水準ややりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件整備に努めている。また、昼食時間には60分の休憩を取得する様努めている。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階に応じて勤務の一環として機会を提供している。法人研修は、各種委員会が研修計画を立て、外部講師や法人内の看護師等が講師となって感染予防や危機管理、事故防止について実施しており、関連ある研修に職員が参加している。外部、法人の研修に参加した職員は研修レポートを提出し、月1回のミーティング時や法人研修時に伝達を行い、全員で共有している。	・職員を育てる取り組みの充実

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員とも山口県宅老所・グループホーム連絡会を通じて相互研修及び訪問交流を行って活動を通じて、サービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様との傾聴を心がけると共に、本人が困っていること、不安なことを耳に傾けて、望んでいることを確認後、本人との安心を確保するための関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人家族の要望に耳に傾けながら関係づくりに努めており利用者様ご家族との交流はご意見を初めとして、外出時の声かけに反応され一緒に参加されています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議において、意見交換の実施を行い、他のサービス利用を含めた対応に努めている。また、介護サービスには24時間シートを導入している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	天気の良い日は必ず散歩にお誘いして、外気温を感じて頂き、空気をいっぱい吸って頂くようにして、平素は体操や個々についてのお話・童謡を歌いながら関係づくりに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議には、利用者様ご家族交替にて参加していただき、年間を通じた家族参加型の行事の実施などは家族に連絡をして対応や意向を常に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係の方々が来所された時の利用者様の嬉しそうなお顔。出来る限りの面会をご家族様を通じて努めている。活躍されていた時のカラオケ同好会の方々が来て、楽しまれるお姿を拝見し、ご利用者様も話にひかれて楽しそうに笑顔を見せられることが多く、馴染みの関係が切れないよう支援している。	家族の面会、親戚の人や友人、近所の人々の来訪がある他、電話での交流を支援している。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や商店での買物、外食、墓参、一時帰宅の支援をするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を配慮した席の配置。外出時のメンバー考慮などを行っている。以前は男性・女性の混合席であったが、女性の声も小さくなるため、男性・女性の別々になっている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時の終了後も、お付き合いをさせて戴いており、また、新たに入所のご相談をされて、入所等の配慮をいただいたりと、以前と変わらないお姿に感謝を申し上げたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの思いや暮らし方の希望を、共同空間でお話を伺いながら、意向の把握に努めている。なるべく本人の家庭生活と同じような思いで生活して頂けるよう理解と把握に努めている。	入居時のフェイスシートを活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や表情、様子などを経過記録に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	・思いや意向の把握の工夫
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お一人おひとりの生活歴の把握が重要であり、どのようにして生活をされて来られたのか、馴染みの暮らし方が出来るように現状の把握に努めていきたい。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの過ごされ方は、心身状態について違いがあるのが当たり前であり、利用者様にあった対応を見極めて、現状の把握に努めながら。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、カンファレンスの実施。家族への説明、ご意見を伺ったうえでケアプランの同意をいただく。また、現状に即した対応を行っている。	計画作成担当者と利用者を担当する職員を中心に、3ヶ月に1回、家族に出席してもらってカンファレンスを行い、本や家族の思い、主治医や訪問看護師等の意見を参考にして、話し合い、介護計画を作成している。6か月毎にモニタリングを実施し、1年毎に見直しをしている保p化、利用者の状態や要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の記入。毎月の実施状況の会議を開催し、職員間で情報は共有して必要があれば見直しを行って、実践や介護計画を見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、その時々生まれるニーズに対応して、希望や問題があるたびミーティングにて話し合い、必要と思われる支援を実施している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議委員に自治会長、民生、児童委員、第3者委員等社会資源の豊富な地域である。本年は年2回ある草取りに多くの職員が参加しており、自治会の仲間として信頼している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	平成27年度途中から、かかりつけ医の訪問看護が毎日来ていただけるようになり、全員に来ていただけるようになりましたので安心できるようになりました。急性の時には酸素濃縮装置も用意され安心の一言です。当グループホームは、受診支援として、中司訪看と連携しており、医療サービスとして、早期に治療等出来るようになっており、利用者様にとり非常に心強いとの言葉を戴いております。	本人、家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、毎週往診があり、休日、夜間等、24時間の対応をしている。訪問看護師は週1回訪問し、健康管理を実施している。歯科受診は希望すれば訪問診療がある他、他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。受診結果は電話で家族に報告して共有し、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の介護の中で便通がなかったり4日5日となった場合、通常は訪問看護師に浣腸をお願いをすることになります。但し、時間外に於いて難しい状態の場合は、職場内の看護師が対応する連絡はついております。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院を定めており、緊急時には家族連絡・主治医等と連絡し適宜連絡相談を行っている。夜間に往診に来ていただく事もあり、大変利用者様ご家族も喜ばれている。施設にとっても大変ありがたく感謝している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針の作成。看取りの時期の主治医の判断があった時点で担当者会議の開催。看取りのケアプランの作成、実施等で対応している。平成27年度は看取りの方はいませんでした。	指針があり、契約時に事業所で出来る対応について家族に説明をしている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の思いや意向を踏まえて、かかりつけ医と相談し、医療機関や他の施設への移設も含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。看取りの支援にも取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	内部研修及びマニュアルにより全職員に徹底。個別に応じた対応の実施。職員一体となり誤薬ゼロを目指した取り組み。その配慮から誤薬は聞かないので、このことを可能な限り続けていきたいと思います。	発生した場合は、事故報告書、ヒヤリハット報告書に原因や内容、対応、再発防止策についてその日の勤務者で話し合い、他の職員には記録を回覧している。法人の事故対策委員会の意見やリスクマネジメントの勉強会へ参加して、再度、月1回の会議で話し合い、ひとり一人の事故防止に取り組んでいる。誤薬を無くす取組みや転倒予防に取り組んでいるが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、近代的な防火設備（スプリンクラー）を配置しており、また、非常口等もすぐ対応できるので、昼夜を問わず利用者が避難できるので心強く思うと共に、年に2回避難訓練を行っており毎年継続していきたい。防災管理者としてひごろもそうでは、施設長が防火管理者として、全般を指導しております。年に2回の防火・避難訓練を行っており、職員の皆様と支え合いながら指導していただいております。	年2回、消防署の協力を得て法人施設合同で昼夜の火災を想定した避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方、通報訓練、防災機器の取り扱い等を、利用者も参加して実施している。併設する施設全体での協力体制はあるが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者を含め職員一同お互いが言葉使いを含めて配慮を行い、また、内部研修において、利用者様に対して人格の尊厳を損ねないよう言葉かけを行っている。	管理者は月1回の会議時や日々の業務を通して、人格の尊重とプライバシーを損ねない言葉づかいや対応について指導し、職員は理解して、利用者の自尊心を傷つけず、プライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。不適切な対応があれば、管理者がその都度、注意している。個人記録の取り扱いには留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の声に耳を傾け、可能な限り意向に添って、介護時には言葉かけ、了解を得てから行うようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所理念にも掲げ、その人らしい過ごし方が出来るように、一人ひとりのペースを大切にして、利用者様の希望に添った、対応を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には月1回訪問散髪があり、利用者様は多くの方が利用されている。長髪希望の方は髪型を変えてみたりされている。月に1度外出もあり、洋服の着替え、好みの服を着られて外出されている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月の外出行事等には、1月初詣を行い、帰日には参加者で外食をされて、たまには外で食べるのも嬉しいですねと利用者様から声を掛けていただいた。利用者と一緒に手ぬぐい、新聞たたみを手伝っていただいている。	三食とも法人栄養士による献立の配食を利用し、食品交換や利用者に合った形状にして提供している。ご飯やお粥は事業所でつくっている。利用者が植えたプランターのネギを使うこともある。利用者と職員は同じテーブルを囲んで食材を話題に会話を弾ませながら食事をして、職員は食事介助等の支援をしている。月1回のおやつづくり(鈴カステラ、ホットケーキ)や月1回の外食、誕生日食のケーキづくり(デコレーションをする)、季節の行事食(おせち、クリスマス、節句、ソーメン、デザートバイキング)など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新たに健康管理表を作成し、バイタルチェック水分量、食事量、血圧、脈拍、体温、投薬チェック、入浴の有無、排便の有無、排尿回数、体重測定(月1回)月別にわかるようになっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口の中の汚れや臭いが生じないよう、出来る人は本人が、歯磨き、義歯洗浄を、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを、出来ない人は職員が義歯洗浄を実施している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握するため、時間や量の記録を行い、それに応じて誘導声かけを行い自立支援を行っており、徐々に低下している人も見受けられる。排泄の失敗等もあり、24時間保清を行っている。パターンを読み、おむつの使用の努力の結果、利用者様ご家族から感謝の言葉をかけられて、恐縮しております。	24時間シートを活用して排泄パターンや習慣を把握し、ひとり一人に合った言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行うと共に、飲食物の提供、運動の支援を行い、個々に応じた方法及び便秘薬等で調整を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴はいつでも入られる環境を整えており、法的には週に2回とありますが、毎日入浴される方もいて、個々に応じた対応を行っている。トイレで汚染された場合でも浴室は隣接しており、即対応できるようになっている。入浴は利用者様全部がお好きなようで、また要介護度の状況により入浴の形も違ってまいります。特浴に入られる方も2人いられますので、たの状況を見ながら入浴を行っております。	入浴は毎日、10時から11時30分までと13時30分から15時までの間可能で、利用者の体調や希望にそって支援している。季節を味わってもらえるよう、菖蒲湯や柚子湯にするなどの工夫をしている。入浴したくない人には無理強いしないで言葉かけの工夫や職員を代えたり、時間を変えるなどの工夫をしている。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、部分浴、特浴(ストレッチャーのまま入浴、チェアー浴)など個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリをつけることや、共用の空間に出て来ていただいて、お好きなテレビを見たり、10時と3時のおやつをゆったりとして食べられた後、お昼寝をされたりと、安心してお休みをされています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。誤薬(他利用者の誤薬)等もなく職員の皆さんも協力されており、誤薬0(ゼロ)が長くつづいている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌のお好きな方には、DVDにテレビを模写して、その方に合った歌と一緒に歌い、午前中、午後と体操の時間をとっており、生活歴に合わせた材料の提供を行い、個別に気分転換の支援を行っている。	テレビやDVD視聴(歌番組)、折り紙、ぬり絵、切り絵、間違いさがし、プランターに花や野菜を植える、タオルを巻く、洗濯物たたみ、ラジオ体操、新聞たたみ、誕生日ケーキのトッピング、散歩、ドライブ、季節行事(節句、クリスマス)など、利用者のしたいこと、好きなことを見つけて、日々の生活の張り合いとなるよう場面づくりを行っている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を通じて外出は行っており(雨・台風・雪は除く)、1月の天満宮を初めとして、3月の向島小学校の桜を初めとして、防府には、たくさんさんの史跡等もあり、普段いけないような場所も行かれて、ご家族と一緒に楽しんでいます。ただいたいます。	周辺の散歩や季節の花見(梅、桜、新緑、菖蒲、つつじ、紫陽花、紅葉)、ドライブ(きららの駅、キララ浜、ソレイユ周南、毛利邸、富海)、天満宮に初詣など月に1回は出かけている。家族の協力を得て買物、外食、寺参りなど戸外に出かけることができるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の管理は難しいようであり、ご家族様よりお預かり金を管理。本人のためのみ使っている。管理者が毎月使用した領収書等を明細書と共に提出し、確認印をいただいている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をしたいと申された時には、お電話をかける時もありますが、全員同一ということとは難しく、個別対応にて行っている。お話をした後の利用者様のお顔は嬉しそうにされています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、四季に応じた居心地の良い共用空間(玄関、廊下居間、台所食堂、浴室、トイレ)が利用者様にとって不快や混乱が招かないよう春夏秋冬季節に応じた温度、湿度等も見ながら居心地良く過ごせるように工夫している。	食堂兼リビングは明るく、室内にはテーブルや椅子、ソファをゆったりと配置し、壁面には利用者の活動写真や季節を感じることできる切り絵や貼り絵が掲示してある。温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外での居場所の確保。本人が永年の生活で、自分の個々の居場所が確立されている。フロアであるテレビが面白くないときは自室に帰りテレビを見られることもある。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者様が使い慣れたタンス、布団の、使用居室のレイアウトを工夫しながら、本人の使い慣れた品物を上手に利用されておられる。	テレビ、箆笥、テーブル、椅子、カセットラジオ、位牌、洋服掛けスタンド、装飾小物、時計、寝具、化粧品、縫いぐるみ、家族写真など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計及び手すりなどの設置。手洗い場も、冬は暖かい温水が自動で出て、安全で自立した生活を行うための設計がされている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ひごろもそう

作成日: 平成 28年 7月 15日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	自治会の加入や事業所だより、行事・ボランティアなど行っているが、地域とのつながりがもてるようかかわり方の工夫。	地域活動への参加。 ボランティアの受け入れを積極的に行う。 利用者と共に外へ出ていく機会を増やす。	自治会の清掃活動にも利用者と参加する。 GH独自で、ボランティアや近隣の園児・小中学生を受け入れ、交流会や茶話会などを行う。 近くのスーパーへ買い物に出かけたり、散歩などを行い気軽に挨拶ができる関係を作る。	12ヶ月
2	4	評価の意義と活用。	全職員が評価や目標達成計画をもとに、次のステップアップに意欲的に取り組むようになる。	評価についてミーティングを行い、振り返ることで評価の意義を理解していく。 理解したうえで、目標を作成、共有し、取り組むようにする。	12ヶ月
3	5	地域メンバーの拡大。	地域の方に興味を持っていただき、様々な方に運営推進会議に参加していただき、いろいろな意見を出していただけるようにしたい。	利用者様・ご家族様の参加を促す。 防府市社会福祉協議会への参加の依頼をする。	12ヶ月
4	14	研修など実施し共有しているが、職員を育てる取組みの充実の検討。	外部・内部研修の継続と、職員の個々に合わせた指導ができるようになる。 離職率を下げる。	内部・外部研修に積極的に参加する。 また、職員の教育について考え、話し合いをし、職員のスキルアップ・意識改革をしていく。 できていないところばかり見ないで、良いところを伸ばしていくように取り組む。	12ヶ月
5	24	思いや意向の把握の工夫。	利用者様・ご家族からの意向をしっかりと聞き取りケアプランを作成し、日々の生活に活かすことができるようになる。	ケアプランを全職員で共有し、日々の生活の中に取り入れていく。 利用者様との会話から思いや意向を察知するため、日々のコミュニケーションをより一層強化する。 取り組み・反応など記録に残すようにする。	12ヶ月

6	35	委員会や勉強会など取り組まれているが、すべての職員が実践力を身につけているとは言えず、全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続。	全職員がマニュアルに沿って応急手当や事故発生時の初期対応ができるようになる。	全職員が応急手当や初期対応など、様々な場面を想定して訓練を行う。	12ヶ月
7	36	併設する施設全体での協力体制はあるが、地域との協力体制を築くまでには至っておらず、地域との協力体制の構築を検討。	地域の消防団や消防署とも連携を図れる関係づくりに取り組む。	運営推進会議への参加の依頼をする。避難訓練の際は、見学に来ていただき、ご意見などをもらう。	12ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。